

みずほマーケット・トピック(2023年9月22日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、FOMCを通過後に年初来高値を更新も、その後は失速した。週初18日、147.86円でオープンしたドル/円は、軟調なアジア株式市場を横目に147円台後半でじり安。海外時間も材料難の中、147円台後半でのレンジ推移となった。19日、ドル/円は米金利の持ち直しを受け148円を目指す展開。海外時間は、下落してスタートも、カナダ金利に連れ高となった米金利動向を背景に、147円台後半に再上昇した。20日、ドル/円は円売り相場の中、148円を目指す続伸。海外時間は、米金利低下を受け147円台半ばに下落。FOMCは政策金利の据え置きを決定も、更新されたドットチャートでは、2024年末の政策金利見通しが+50bp上方修正されるなどタカ派な内容となり、これらが材料視されて米金利は急騰、ドル/円も148円台前半に急伸した。21日、ドル/円はドル買い相場が続く中、年初来高値となる148.46円に上値を伸ばした。海外時間は、米金利は上昇していたものの、翌日に日銀金融政策決定会合を控える中、政策修正への警戒感から円が買われ、一時週安値となる147.32円に下落した。本日のドル/円は、円買いの一服を受け、147円台半ばでの取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、FOMC後に明確に1.07を上抜けるも、その後失速しほぼ往って来い。週初18日、1.0669でオープンしたユーロ/ドルは、ECBが量的引き締め(QT)を加速させるとの思惑が高まり、独金利動向に合わせ1.07に向け上昇した。19日、ユーロ/ドルは、ユーロの買い戻しが続き1.07台に乗せるも、米金利上昇に押され再度1.07を割り込んだ。20日、ユーロ/ドルは、欧州株高や米金利低下を背景に一時週高値となる1.0737に上昇も、FOMCのタカ派な内容を受けた米金利反転に合わせ、1.06台半ばに急落した。21日、ユーロ/ドルはドル買い相場の継続を背景に一時週安値となる1.0617に続落も、複数のECB高官による追加利上げの可能性を示唆するタカ派な発言が材料視され、1.06台後半に反転上昇した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.06台後半での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		9/15(Fri)	9/18(Mon)	9/19(Tue)	9/20(Wed)	9/21(Thu)
ドル/円	東京9:00	147.46	147.86	147.62	147.76	148.32
	High	147.95	147.88	147.92	148.36	148.46
	Low	147.35	147.57	147.51	147.48	147.32
	NY 17:00	147.84	147.61	147.87	148.34	147.59
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0635	1.0669	1.0693	1.0681	1.0650
	High	1.0688	1.0699	1.0718	1.0737	1.0673
	Low	1.0634	1.0655	1.0676	1.0650	1.0617
	NY 17:00	1.0658	1.0693	1.0679	1.0660	1.0663
ユーロ/円	東京9:00	156.81	157.72	157.83	157.84	157.99
	High	157.90	157.93	158.28	158.43	158.05
	Low	156.74	157.36	157.78	157.82	157.05
	NY 17:00	157.61	157.81	157.93	158.16	157.35
日経平均株価	33,533.09	-	33,242.59	33,023.78	32,571.03	
TOPIX	2,428.38	-	2,430.30	2,406.00	2,383.41	
NYダウ工業株30種平均	34,618.24	34,624.30	34,517.73	34,440.88	34,070.42	
NASDAQ	13,708.34	13,710.24	13,678.19	13,469.13	13,223.99	
日本10年債	0.70%	-	0.72%	0.72%	0.74%	
米国10年債	4.34%	4.30%	4.36%	4.40%	4.49%	
原油価格(WTI)	90.77	90.58	90.48	89.66	89.63	
金(NY)	1,946.20	1,953.40	1,953.70	1,967.10	1,939.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、29日(金)に8月米個人消費支出(PCE)デフレーターが公表される。7月の総合ベースの結果は+3.3%(前年比、以下同様)と6月の+3.0%から伸びが加速。コアベースでも+4.2%と6月の+4.1%を上回った。もともと、市場予想通りの結果となっており、ベース効果も相まって前年比では加速も、前月比では総合ベース、コアベースいずれも+0.2%と緩やかな伸びにとどまった。総合ベースにおいては、着実にFRBの+2.0%目標に向け前進している。ただ、コアやトリム平均といった基調的なインフレ率は高水準であり、さらなる労働市場の緩和を待つ必要がある。9月FOMC会合では政策金利の据え置きを決定も、パウエルFRB議長の会見ではインフレへの警戒感は根強く、利上げ含みの姿勢は維持。コアインフレのさらなる軟化や労働市場の緩和がなければ、利上げ終了には至らないだろう。なお、ブルームバーグの事前予想では、8月の結果に関し総合ベースで+3.5%、コアベースで+3.9%と見込んでいる。
- 欧州では、29日(金)にユーロ圏9月消費者物価指数(HICP、速報)が公表予定。8月の結果(確報)は総合ベースで+5.2%(前年比、以下同様)と7月の+5.3%からわずかに減速。また、エネルギー、食料品、アルコール、タバコを除いたコアベースでも+5.3%と7月の+5.5%から減速した。コアの粘着質な動きには昨年ドイツで行われた公共交通料金引き下げの反動が寄与しているものと考えられるが、この影響は9月には剥落するので、9月も減速基調を続ける公算が大きい。なおECBは、9月政策理事会におけるスタフ経済見通しにおいて、2024~25年のコアHICP見通しをそれぞれ6月時点から+0.1%ポイント上昇修正しており、インフレ長期化への警戒を解いていない。

	本 邦	海 外
9月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 8月全国消費者物価指数 9月製造業/非製造業PMI(速報) 植田日銀総裁会見 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏9月製造業/非製造業PMI(速報) 米9月製造業/非製造業PMI(速報)
25日(月)	—————	<ul style="list-style-type: none"> 独9月IFO企業景況感指数
26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 8月企業向けサービス価格指数 	<ul style="list-style-type: none"> 米7月FHFA住宅価格指数 米8月新築住宅販売件数 米9月コンファレンスボード消費者信頼感
27日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 日銀金融政策決定会合議事要旨(7月会合分) 7月景気動向指数(確報) 8月工作機械受注(確報) 	<ul style="list-style-type: none"> 独10月GfK消費者信頼感 米8月耐久財受注(速報)
28日(木)	—————	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏9月消費者信頼感(確報) 独9月消費者物価指数(速報) 米4~6月期GDP(確報)
29日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 8月東京消費者物価指数 8月失業率/有効求人倍率 8月小売売上高 8月鉱工業生産(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏9月消費者物価指数(速報) 米8月個人所得/支出 米8月個人消費支出デフレーター 米9月ミシガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2023年10月~)】

ECB 政策理事会 (10月26日、12月14日、1月25日)

日銀金融政策決定会合 (10月30~31日、12月18~19日、1月22~23日)

FOMC (10月31日~11月1日、12月12~13日、1月30~31日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔 (TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2023年9月21日	FOMCを終えて～「2024年こそ利下げの年」という危うさ～
2023年9月20日	23年4～6月期資金循環統計～「貯蓄から投資」の胎動～
2023年9月19日	「欧州の病人」は戻って来たのか？
2023年9月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「事実上の利上げ停止宣言」の読み方～)
2023年9月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年8月分)
2023年9月13日	ECB政策理事会プレビュー～「見送り+α」の公算～
2023年9月12日	日銀の政策運営に関するQ&A～読売報道を受けて～
2023年9月11日	7月国際収支の読み方～為替需給変わらず～
2023年9月8日	週末版
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状
2023年8月23日	なぜ購買力平価は使えなくなっているのか
2023年8月22日	力強さが続くユーロ圏の雇用・賃金情勢
2023年8月21日	「持たざるリスク」に直面する日本の家計部門
2023年8月18日	週末版(本邦7月貿易収支を受けて～中国不振が阻害する収支改善～)
2023年8月17日	本邦4～6月期GDPの読み方～冴えない内需～
2023年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年7月分)
	年初来安値で確認する円の立ち現在地
2023年8月14日	再投資柔軟化から1年～フランスに並んだイタリア～
2023年8月10日	週末版(アマゾン「プライム」値上げの意味するもの～デジタルサービスへの外貨流出～)
2023年8月9日	緩和持続を約束する実質賃金の低迷～円安の余韻～
2023年8月8日	23年上半年の国際収支統計を受けて～CFベースでは赤字～
2023年8月7日	マイナス金利解除の実現可能性～日銀に迫る円売りゲーム～
2023年8月4日	週末版
2023年8月2日	ユーロ圏経済の近況～経済・物価情勢はECBハト派を示唆～
2023年7月31日	日銀会合を終えて～今後の課題は「円売りによる挑発」～
2023年7月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～急速に薄らいだタカ派色～)
2023年7月27日	FOMC(7月25～26日)を終えて～現状維持に備え～
2023年7月25日	日銀金融政策決定会合(7月27～28日)プレビュー
2023年7月21日	週末版(正常化が近づくインバウンド需要～労働で稼いだ外貨はどこへ行くのか～)
2023年7月20日	23年上半年の貿易収支を受けて～構造変化を直視～
2023年7月19日	残る円安・資源高の余波～物価「変化率」だけでなく「水準」も～
2023年7月18日	ICEドルインデックスの100割れをどう読むべきか？
2023年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年6月分)
	週末版
2023年7月13日	実効ベースで見た為替相場～最強「フラン」と最弱「円」～
2023年7月12日	円高の読み方～自律反発後にどこまで戻るか～
2023年7月11日	経常収支の正しい読み方～符号ではなくキャッシュフローを～
2023年7月10日	イノベーションボックス税制はBrain freezeの処方箋か
2023年7月7日	週末版(金利差拡大で円安が進まない背景～日本株下落とポジションの偏り～)
2023年7月6日	「投機の円売り」と「夏枯れ相場」～進むキャリー取引～
2023年7月5日	ユーロ圏6月消費者物価指数～雇用・賃金情勢の逼迫～
2023年7月3日	シミュレーション進む「ドル抜きの世界」～COFERの近況～
2023年6月30日	週末版
2023年6月29日	金融政策と通貨政策、動くのはどっちが先か
2023年6月27日	23年3月末時点の「資金循環統計」を受けて
2023年6月26日	「2005～07年の円安パブル」と現在の違い
2023年6月23日	週末版
2023年6月22日	ECBは利上げ停止後に何をすつもりか
2023年6月21日	「Brain freeze(思考停止)」と研究開発サービス赤字
2023年6月20日	「2030年までに対内直接投資残高100兆円」の現実味
2023年6月19日	日本、「監視リスト」除外の読み方～国力低下の象徴～
2023年6月16日	週末版(ECB政策理事会を終えて～we're not at destination～)
2023年6月15日	FOMCを終えて～追い詰められる円高見通しと年内利下げ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年5月分)
2023年6月14日	日銀はいつ動くのか～円安抑止策としてのYCC修正可否～
2023年6月13日	家計金融資産の「開放」は何を意味するか～骨太の方針～
2023年6月12日	FRBは他国・他中銀から影響を受けるのか？
2023年6月9日	週末版
2023年6月8日	本邦4月国際収支統計を受けて～「新しい赤字」の影～
2023年6月7日	ユーロ圏のインフレ期待について～6月会合プレビュー～
2023年6月6日	「弱い円」への諦観は日本人を動かすか？
2023年6月5日	米5月雇用統計を受けて～遥か遠のく年内利下げ～
2023年6月2日	週末版(コアベースでも鈍化し始めたユーロ圏インフレ率～ハト派転化には十分と言えず～)
2023年6月1日	FRB、6月利上げ見送りの受け止め方～円高到来か？～
2023年5月30日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～賃金は峠、エネルギー環境は脆弱～
2023年5月26日	週末版(32年連続世界最大の対外純資産国の意味～過去最高を記録した直接投資比率～)
2023年5月24日	構造的に薄れるPPPを見る意味～「成熟した債権国」と共に～
2023年5月23日	「世界中が欲しがらる財・サービス」は「高嶺の花」～「弱い円」の価値～
2023年5月22日	資産価格が上がっているのか、円が下がっているのか
2023年5月19日	週末版
2023年5月18日	1～3月期GDPを受けて～ベントアップ需要を阻む円安～
2023年5月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年4月分)
2023年5月16日	4月国内企業物価指数を受けて～変化率と水準の違い～
2023年5月15日	新しい外貨流出源～デジタル・コンサル・研究開発～
2023年5月12日	週末版(米連邦債務上限問題について～政府機関閉鎖は一時的な円高材料に～)
2023年5月11日	3月国際収支統計を受けて～インバウンドの功罪～
2023年5月9日	ECB政策理事会を終えて～持続する利上げ路線～
2023年5月8日	FOMCを終えて～利上げ停止でも円安持続という現実～
2023年5月2日	円相場の現在地～下がり続ける購買力、最強通貨はフランに～
2023年5月1日	植田体制初会合のレビューと円相場への影響
2023年4月28日	週末版
2023年4月26日	ユーロ/円相場、8年4か月ぶり高値の背景整理
2023年4月25日	日銀、初会合プレビュー～YCC撤廃確率は40%～
2023年4月24日	ECB政策理事会議事要旨と5月会合プレビュー
2023年4月21日	週末版(インバウンドの現状と展望～量、質ともに復調しつつあるインバウンド需要～)
2023年4月20日	本邦3月貿易収支～赤字は3か月で5兆円超え～